

第6章

まちづくり提言

〔策定委員〕

基本目標 1 自然との共生を優先し、住環境を大切にする町

項 目	現状・課題	必要な施策
(1) 自然資源の保全	景観のみに捕らわれすぎている	景観を利用することを考える。
	水田の荒廃は安曇野らしさを失う一番危惧すべきこと【(1)～(7)、(9)に關係】	土地利用にあたり、専門の委員会等を設置して、マスタープランを検討・充実・導入・施行。
	北アルプスと田園風景の安曇野の保全	北アルプスと田園風景の安曇野が大きく変容してしまっていることは高所から眺めれば一目瞭然である。 単に池田町だけの問題としてだけでなく、安曇野の市町村が一堂に会して早急に対策を構ずる必要があると考える。町行政として問題意識は町の中に限られている。それも対策よりも現実の変貌のほうが早く、開発の後手になっているのが現状。町の中の対策を緊急のこととして取り組みながら、田園あつての安曇野は安曇野の市町村の財産だから、国に特区申請して保水機能を持つ広がる田園風景を守るため安曇野の市町村と一緒に働きかけるべきと考える。 田園風景の安曇野も大きく変容してしまっているが、これは池田町や長野県に止まらず日本の大きな損失と考える。これ以上の財産破壊をくい止める責任を町は共有すると考える。
山の動植物の保護	山野草の保護と育成（例えば春蘭、一輪草など）。 メダカ、ホタル、タニシ、ドジョウ、サワガニだけでなく、オオムラサキ、アオガエル、フクロウ、タヌキ、キジ、ウグイスなど小動物の保護。 東山奥部と陸郷・広津地区やハイキングコースへのバード・サンクチュアリー配置。 共存と有害鳥獣ということとの整合性を。	
(2) 適正な土地利用と地域整備の推進	地域を活性化する	広津・陸郷地区に旧農家などを活用して民宿などの施設を誘導する。
	「花とハーブのまち」にふさわしい環境づくり	県道に沿っての花木の植栽。 東山斜面・堤防道路斜面への植栽。
	地域それぞれの特徴もあるが、町としての特徴を見たい	住宅と農用地の混同を避け、それぞれの場所に合った施策を進める。
(3) 治山、治水、利水の推進	治山・治水と観光を結びつける	広津・陸郷地区の再活用。
	治山、治水、水利の推進	水利は概ね可とするも、治山、治水には常に注意を怠れない。
	最近の異常気象による災害に関連して	「広津・陸郷の地滑り地域、東山の危険渓流地域は、対策工事の結果、ある程度の雨量等に耐えられ、安心して生活できる一助となった」としているが、そのなかの「ある程度の雨量等」とは、数字的には何ミリを指しているのかを具体的に示す必要があると考える。異常気象が常

(3) 治山、治水、利水の推進	最近の異常気象による災害に関連して(続き)	<p>態となっている現在、この「ある程度の」ということも現状には当てはまらないのではないかと。</p> <p>新潟・福島、福井災害からみて、高瀬川の上流に例えば1時間に80mmというような集中豪雨があった場合ダムはどうなるのか、一時的に大量の放水、あるいは何ミリになったときに決壊するという数字を示しての説明が求められると思う。これは起こってからでは遅いので至急取られるべき対策と考える。広津・陸郷、東山地域の土質調査と耐えられる雨量等の明示も同様と思う。</p>
(4) 上水道の整備	高い場所では水圧の影響を受けやすく、配管の整備が必要	老朽化した配管の整備、水道料金の適正化。
(5) 下水道の整備	下水道の整備	全戸加入を急ぎ、料金の適正を図る。水道料金との兼ね合い。
(6) 道路の整備	県道歩道の整備	一丁目～林中地区歩道の早期整備。
	道路端に木を植えない 路肩と歩道が狭い	交通事故防止。 路肩と白線の幅がない。
(7) 交通・通信の整備	交通、通信の整備	現状に甘んじることなく、時代の要求に答え、常に改善を心掛ける。
(8) 消防、防災、防犯体制の整備	災害に強い町づくり 防災組織のマップ	災害時のボランティア。 どこそこに行けば水がある。 調理器具(大きな鍋、ヤカン)の設置と管理。
	消防、防災、防犯体制の整備	連絡体制の見直しと犯罪の低年齢化に対処。
	消防、防災、防犯の意識強化	家庭・幼児・学校教育の中で、地域の防災教育を行う。 あらゆる災害を想定した避難場所マップ、災害予想マップの作成、街灯の増設。
	地震や異常気象による災害対策	<p>防災マップの作成 地図化する。各沢筋にはどのくらいの雨量・土石土砂量に耐えられるかを数時で明示する。それを超えた場合、被害がどの集落範囲に影響するかの研究と住民への資料提示</p> <p>地震マップ 崩れる地域・沢筋・ダムの危険度など予想される危険度を町民に分かりやすく提示する。</p> <p>地震などの災害の場合の避難場所の明示。</p> <p>現在の気象は異常状態と思われる。集中豪雨が今後の大きな課題と思われる。遠くのことだけでなく隣りの新潟県で起こったことで、1時間に80mmの集中豪雨があった場合、池田町には避難すべき場所はないのではないかとと思われる(高瀬川は溢れ堤防は決壊、東山周辺は土砂崩れ、砂防ダムの溢水、鉄砲水などによって)。</p> <p>土質調査、耐えられる雨量の調査と結果の公開など、明日のこととして早くの対策を。</p>

(8) 消防、防災、防犯体制の整備	地震や異常気象による災害対策(続き)	新潟の経験からも、とくに一人での行動はしない。高齢者の被害は甚大だった。対策を早期に見直し町全体でどう対処するかを取り組みを。その際、被災地の経験を学ぶ。公的建物(避難場所を含む)だけでなく、私的建物の耐震診断を(防災意識を持ってもらうためにも)。
(9) 住宅対策の推進	災害に弱い住宅で高齢者に使いづらい状態ではないか	高齢者に使いがたい住宅を見直す必要がある。
(10) 環境衛生	町中の公衆トイレの水洗化が遅れている。町の顔でもあり、町内の水洗化率の向上という点からも、早期の実現を要す	早期の具体化を。
	ごみの減量について、社会全体の大きな課題であるが、積極的な研究・施策が感じられない	生ごみの資源化等、積極的な研究・取り組みが必要。
	農業用水路に台所の野菜くずなどを流している	上流住民の意識改革。
(11) 公園・緑地の整備	パターゴルフ場の整備・改修がされたというが、利用率が低い	イベント等の開催を呼びかけ、町民の認知度を高める。料金等を検討し、町民へのサービスを考える。
	公園、緑地の整備	住宅密集地に憩いの場、子どもの遊び場の整備。

基本目標2 思いやりと心のかよう、やすらぎの町

項目	現状・課題	必要な施策
(1) 住民福祉の向上	みんながゆったりできる憩いの場を増やしてほしい	やすらぎの郷の庭。
	住民福祉の向上	高齢者の介護施設への入所手続きの簡素化と入所の迅速化。
(2) 保健予防・医療の充実	健康で生きがいを持った老人になりたい	運動と食事が大事。
	若年者への健康づくりの啓蒙	食習慣の乱れる中高生に食と健康についての意識づけ(講演・広報)。学校教育との連携。
	保健予防・医療の充実	高齢化への対策の強化。
(3) 人権教育の充実	人権教育の充実	高齢者と子どもの手当の充実。

基本目標3 意識改革で個性が輝く、住民主体の楽しい町

項目	現状・課題	必要な施策
(1) 開かれた町政と自治組織の充実	自立した町づくりのためには	行政と住民のさらなる協力が必要。住民に問題を提起し、住民の英知と協力を得て問題解決にあたる(民主主義)。
	開かれた町政と自治組織の充実	何もなければ開かれた町政と思いがちだが、何時も緊張感を持ってほしい。

(1)開かれた町 政と自治組織の 充実	自治会の自主性の確立	自主的な組織であるにもかかわらず、行政自体が、また、自治体自体がそうみていないように思う。伝達機関など下部機関化しているように思われる部分がある。 一度、先進的な自治組織に学ぶべき。
	情報公開条例の改正	現行の条例は公開が限定されている。個人の情報など秘密の保持は極めて限定的に考えるべき。
	住民による意思決定	議会による町政の決定だけでなく、時には重要なそして全体の意見を聞く必要のある課題が増えたと考える。直接民主主義を採用し、住民投票制度をつくる必要があると思う。
(2)行政の効率 化	行政のスリム化	不用な部署の廃止・縮小。
	外部民間人材の登用	経営戦略室の設置。
	議会運営のあり方...議会・委員会がほとんど平日日中のため、仕事と両立できず、働き盛りの若い人が議員になることが非常に難しい	夜間、休日(土・日等)の議会・委員会の開催を検討する。報酬の削減も検討する。
	行政の効率化	効率化を求めるのは当然だが、エラーのないようにしてほしい。
	自立を意識した職員が求められる。その対策	財政が大幅に削減されそれにどう対応するか、住民からの「仕事をしていない」との批判も踏まえて、自分たちの待遇(身分保障と給与)を含め、仕事のありかたを職員全員討議にかけ自覚を持つ、促すことが求められていると思う。
	部署の効率化	総務・福祉・技術の3課制度などが考えられるが、要は職員が無駄なく全力で能力を発揮できる体制にしていく必要がある(住民の批判に応えるためにも)。
	職員数・職員報酬について	給与の現行保障と手当の見直し。 勤務時間管理と長時間超勤(ただ働き含む)をなくし、必要な職員数採用と適正数の配置。
	美術館・図書館・創造館・ハープセンター等の事務・運営統合	現在のなかではともすると廃止・縮小になりがちであるが、その方向ではなく事業を発展させるための方策を住民討議する。ボランティアで住民が運営・業務に参加することも含めて。
審議会等の大幅削減	必要最低限のものにするために一度全部を解任、解散しゼロから出発する。必要な会議をそこからあらたに設置することとする。 日当等のゼロまたは大幅削減、交通費保障。 委員の兼務制限。委員の半数を公募とする。	
(3)財政の健全 化	町会議員、各委員会等固定経費の抑制	町会議員、各委員会等の定数を削減の方向で見直しを行い、支出を抑える。
	財政の健全化	最近2億円がどうのこうの噂あり。 赤字財政のその後はいかが。

	議会定数・運営・報酬について	<p>議会定数については、本来、議会において論議されるべき問題だが、合併問題の中で町としても財政試算のなかで定数に触れている。避けては通れない問題であるので触れておく</p> <p>試算資料では議員数を 10 人としているが、議会は住民を代表する機関であり、その意味から一定数を必要とすることは常識である。声としてある「議員を減らせ」「議会は何をしているのか分からない」などは、財政事情や議会が住民の真の代表になっていないところからくる意見と思うので、議会はそこを論議すべきであると考え。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．議会は議案を審議する場であり、議員は住民の利益を考え議案を審議する代表である。名誉職としての任務は負わない。 2．定数は 12 人以上は必要である。 3．現行 3 委員会を 2 委員会にする（少数者での論議・決定は避ける）。 4．議会開催を休日および平日夜間を原則に（平日昼間を否定するわけではないが、情報公開の一環として住民の傍聴しやすいように、職員の勤務が時間外になるが、実施を前提に考えれば方策は見つかるはずである）。 5．議員報酬の大幅削減（例えば 10 万円程度）。 <p>これは、有能な青年男女も有職のままで町政に直接たずさわることができ、多様な意見が反映できるよう考えたものであり、5 は、1 から 4 までを連動したうえでの提言で、5 だけの単独採用を提案するものではない。</p>
	事業の効率化	<p>財政が縮小を余儀なくされるなかでの自立を考えての提言で、事業そのものは否定しないが、採算性からクライン・ガルテン事業は延期すべきと考える。</p>
(4) 行政の広域化	行政の広域化	これも大切だが、現状を失うことのないように。
(5) 男女共同参画社会づくり	男女共同参画社会づくり	やっと芽生えてきた感あり。健全に発展してほしい。
(6) 青少年育成	青少年育成	幼児教育から人間としての基本を伸ばしてほしい。

基本目標 4 産業の振興と、交流の和が広がる活力ある町

項目	現状・課題	必要な施策
(1) 農業の振興	池田ブランドの開発	大都市への販路開拓。
	農家・行政・農協との連携	広報宣伝販売戦略室の設置。
	農業の振興のためには	農家自身の自覚を意欲が不可欠。問題提起を行い、学習を組織し、行政も後押しをして、農家自身が自立していく方向を見出す。

(1)農業の振興	地産地消を進め、学校給食ではより多種・多量の食材を導入	地場食材を使ったメニュー提案。 給食材料大きさ分けにボランティア活用。
	農業の振興	高齢化に伴い、移住してきた人たちの農業への参画も考えられないか。
	農業振興	マーケティング情報の分析・検討。 有益品目の産地化。 機動力のある特定農業法人の立ち上げ。 スタッフがあれば体験農業・農家民宿も可能。
(2)林業の振興	林業の振興	効率化を求めるなら、林道と機械化は避けられないと思う。
(3)商業の振興	新しい商店街づくり	売る、学ぶ、楽しむ(交流する)、健康になる、をコンセプトにした100年計画の街づくり再生プランの出発。
	空き店舗対策事業の展開	歴史的街なみの整備とそのための人材確保。
	魅力ある品揃えとサービス	高齢者や子育て世代への注文・宅配サービス。 入ってみたいくなる店づくり。
	商業の振興	旧商店街にこだわることなく新しい感覚でいけないだろうか。
	商店街の活性化について	現状のまま頑張るのは限界。新しい街並みを考える時期だと思う。古久庄の蔵などを中心に核となるところを造る。そのため空き店舗などの利用、取り壊しも必要だと考える。
(4)工業の振興	工業の振興	大都市との交流によって地元の技術者の活躍を望みたい。
(5)観光の振興	観光マップの作成、研究、活用	宿泊施設の拡大を計る。
	観光資源が点在しているが、統一的魅力を出せない	もっと観光協会が積極的に活動し、町内の資源を掌握し、対外的な打ち出しを強める。
	最大の観光資源である東山一帯の統一的方向が示されていない	全体を自然植物園化するなど研究グループをつくる。
	観光の振興	ハーブセンターのみに捕らわれず、大きく池田町を見つめたい。最近の「北アルプス展望」は良かったと思う。
	観光・(農業と結びつけて)雇用の増進	ハーブセンターを中心に、ハーブ以外に収益性のある品目の生産・販売・市場販売。 温室の有効利用、周年生産、地元農家とのリレー生産、スタッフ(雇用)増進につなげていく。 美術館も利用者の減少が懸念される。収益を追求することは絶対と思う。新たな事業計画を早急に考えるべき。
	ハーブセンターを中心とする観光拠点づくりを考える	現存のハーブセンターはレストランを主とする施設にする。 無理にハーブ料理店とする必要はなく、自然にハーブを取り入れたレストランに。

(5) 観光の振興	<p>ハープセンターを中心とする観光拠点づくりを考える(続き)</p>	<p>道をはさんだ東側は温室と、計画されている加工施設で、いろいろ観光物産や苗などを販売するようにすれば、道をはさんでいても効果的だと思う。</p> <p>営業時間について、夏期は午後7時までは営業してほしいと他市町村の方々から意見をいただいた。</p>
	<p>美術館をもっと利用しやすくした方がよい</p>	<p>展覧会を見るためだけの美術館ではなく、展覧会用の入館料受付を奥に別につくることによって、ほかの美術館でもやっているように、ミュージアムショップやカフェを入館料を支払うことなく利用できる施設にすることは可能だと考える。また、講演会利用にも使いやすくなると思う。</p>
	<p>北アルプス展望台としての東山整備</p>	<p>秋口から初夏にかけての北アルプスは自慢できる町の財産である。その展望台としての東山に、大型自動車や農耕用以外の自動車の乗り入れを禁止し、徒歩や自転車ハイキングによる展望道路を設置する。</p> <p>特に東山からの冬の北アルプスは、国外にも誇れる景観であり、除雪体制を整備して宣伝に努める。</p> <p>ビューポイントの整備と宣伝。</p> <p>滝沢から半在家、中島にかけての開発の規制、屋敷林の義務化(それには、町としての援助も必要になるが)。</p> <p>展望の邪魔であるクラフトパークの鉄塔の電力会社負担による移転。</p>
	<p>まちづくり100年計画を</p>	<p>良好な住環境や観光をにらんだ街づくりをするには長いスパンでの計画が必要。</p> <p>町は過去に水と蔵の町と聞いた。街には黒い格子の古民家が何軒かある。時間をかけて高山の家並みの商店街を目指してはどうだろうか。町商店街の県道の西側に水路があったが、フタをされてしまっている。東部町の海野宿や岐阜・古川(路地裏だが)、山陰の萩だったか津和野のように鯉などが泳ぐ水路になればと考えていたのだが...</p> <p>街の景観で観光客を呼べるようにするには、一定の規制も必要になる。例えば、イタリアのフィレンツェやシエナの統一された屋根をはじめ、スペイン・ミハスの白い町、液化燃料自動車禁止のスイス・ツェルマツトやミュレーンなど、参考にする必要があると思う。</p> <p>少なくとも虫食い状を避けるため、安曇野という財産である田んぼのなかへの新築は規制し、現存集落内へ誘導する必要があるのではと考える。</p>

(6)雇用と労働	観光が町の重要産業と位置付けられるなら、観光産業を雇用に結びつける	それなりの経営戦略が必要。 町の産業として位置付け、追求する。
	雇用の拡大、若年層の定着の問題等で、企業の誘致ということが挙げられるが、具体的な動きがない	プロジェクトチーム等をつくり、具体的な研究を。
	雇用と労働	今の社会は明治維新と終戦時の混乱以来と言われている。いずれにしても何もないところからできるのは農産物だけ。農は国のもと。農業が盛んになれば工業も商業も盛んになると思う。
(7)友好交流の充実	交流で得たものを活かす	交流で得た情報・施策等を、より具体的に町民に伝達する。
	友好交流の充実	優秀な町の若者を、町費を使ってでも先進国に派遣してはどうか。

基本目標5 芸術・文化とスポーツに親しみ、生涯学習を推進する町

項目	現状・課題	必要な施策
(1)家庭教育の充実	家庭教育で大事なことは、しつけ・あいさつをする	大人も子どもへ、夫婦間でもあいさつをする。
	家庭教育の充実	急激な社会の変革で教育者も児童・生徒もついていけなくなってきた仏教などの思想を取り入れることも必要か。
(2)幼児教育の充実	幼児教育の充実	幼児教育の前にまず両親の教育あり。
	将来国際社会に対応できる子どもの育成	長期休暇時にホームステイ等で交流できる相手国の検討及び支援を行っていく。
(3)学校教育の充実	学校教育の充実	最近人を驚かすような、思いもよらない事件が起きる社会。自然に目を向けるような教育の方向へ転換を。
	お年寄りが町の公民館まで足を運ぶのは大変。是非出前講座を	デイサービスの職員が近くの公民館へ出向いて、指遊びや軽い体操などを行ってほしい。
(4)生涯学習のまちづくり	お年寄りの人たちも楽しく学べる場を	フォローすることが大事(迎えに行く、送っていく)。
	学習の意欲・必要性が増大している	中心センターとして池田学問所を開設する。また、学習(人材育成)を新しい町づくりの基盤の一つに据える。
	絵画(美術館)、音楽(創造館)、工芸(スペースゼロ)、文学(記念館・図書館)の有効活用	町内の文化人のネットワーク化、事務局づくり、マップづくり交流を構築して、新しい町づくりに参加してもらう仕掛けをつくる。
	美術館の有効活用	集客力のある魅力的な企画で人が集まることで、より池田町のロケーションも周知される。
	生涯学習の町づくり	年老いた人はとかく家にこもりがちだが、努めて新しい知識を与える機会を増やしてほしい。

(4)生涯学習のまちづくり	芸術文化のまちづくり	移住してきた人たちと積極的に交流して、その人たちが過去に体験してきた芸術観等も参考になるかもしれない。
	図書館	自動車による巡回図書館の開設。
	図書館	電子図書や携帯電話の利用などに発展するか。
	記念館	どちらかといえば重々しく薄暗いイメージがある。記念館に合う明るいバックミュージック等、展示品の前に立つと自然に説明が流れるような機構はどうか。
	美術館	美術館の入場者による利益追求は望むべきことではない。ロンドンの大英博物館は無料である。 町民とあわせて来館者に良い作品展覧を提供する場であることに徹することが結果を得ることに。
(5)生涯スポーツの推進	健康のためにスポーツ振興を	町内に健康ジムをつくる。
	スポーツ人口の増加を図る	スポーツ未経験者もより参加しやすい企画と、学校・職場・地域でのアピールを充実させる。
	生涯スポーツの推進	高齢者に望みたいのは無理をしないこと。ことにスケジュール優先は一考を要するのでは。

文章表現及びその他

・池田町は高齢化が進み出生率は低下しているが、子育て支援も充実し、長時間保育、一時保育、学童センターなど子育てをするにはとても良い環境である。しかし、それは住人にならないとなかなかわからない面でもある。より町外の子育て中の皆さんが知って、この町へ住んでくれたらいいなと思う。ホームページなどでどンドンアピールしてほしい。子育て中の皆さんも、市民タイムスの「私の子育て日記」などで宣伝してほしい。

【現状・課題】

第3章基本構想の将来展望《人口》の「2 第4次総合計画の目標人口」では、「合計特殊出生率は1.39」と書き、《土地利用計画》では、「土地利用も虫食い状態になりかねません。現在、民間によるミニ開発が進んでいます」そして「第4次総合計画での土地利用は、まずこの美田をいかに守るかということから考えます。その中でもう一度自然の良さを再認識し、自然との共生を図る中で、第1次産業である農業の起死回生の対策を打ち出します。そしてまずこの土地に住んでいる人の住環境を最優先に考え、時代の波に左右されない、美しいまちづくりを進めます」と言っている。

書かれている内容は、抽象的にではあるがよしとするものだが、私が東京から移り住んで来て7年、現状は総合計画が予測した以上に農業の衰退、自然の荒廃と開発は進んでいるように思われる。

【必要な施策】

総合計画の中でも、規制について触れてはいるが、それが目に見えない。北アルプスと安曇野の景観が、年々、開発と荒廃（国の政策による荒れ田も含む）により、「この美田をいかに守るか」がずると後退し、「住んでいる人の住環境を最優先に」とは言っているものの、それは民間によるミニ乱開発の放置であり、安曇野という自然への破壊、住環境の悪化を許している以外の何物でもないのでは、と思うのだが（これは一町村でできるものではなく、安曇野全市町村で考えるもので、それを早くする必要がある）。

もちろん、人間が生活すれば多かれ少なかれ自然環境に影響を与える。問題は、人間以外の動植物との共存、自然への影響をどうしたら最小限にするかを住民とともに考え実施するかである。そうした点から、つぎのように考える。

町は自立を選択した。この総合計画も、後半期ということではなく、自立を目指した「新たな総合計画」という視点に立つべきである、というのが私の基本的な考えである。

……（各項目ごとの提言は表中に掲載）……

最後に、この総合計画策定委員会のあり方であるが、それぞれの発言がたとえば相反する提案意見であっても双方が提言として記録されている。これだと、町は「いいところ取り」をしてしまう。事案によっては、賛成・反対をまとめる必要があると考える。一定時間深く議論し、採決によって賛成・反対を明確にすることが求められると考える（その場合、多数が賛成か反対かを明示する）。

